修斉地区まちづくり基本構想

修斉地区市民協議会

令和４年５月

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１　修斉地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(1) 地理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(2) 地区町村年表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(3) 修斉小学校の校名のいわれ・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(4) 修斉地区の今・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２　修斉地区の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

３　修斉地区の宝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

４　修斉地区の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

５　目指すべき将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

６　修斉地区まちづくり方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

７　修斉地区の取り組みの提案・・・・・・・・・・・・・・・・・13

８　これまでの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

勉強会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

住民説明会・記念講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

このまちづくり基本構想は、まちづくり初動期活動サポート助成（(公財)大阪府都市整備推進センター）を受け作成しました。

はじめに

「ながめ良き和のまち」これは修斉地区市民協議会（以下「市民協」という。）が平成元年の設立当初から使っているキャッチフレーズです。神於山と葛城山が望め、豊かな田園風景が広がる地域です。北阪八幡宮に登ると、大阪湾から六甲の山並み、明石海峡大橋から淡路島の雄大な景色が望めます。

修斉地区は、大部分が市街化調整区域と農業振興地域に指定されており、ほ場整備が６カ所（134ha）で行われ、農業が主産業の地域となっています。

しかしながら、近年、少子高齢化・人口減少問題、農業の担い手不足等々、修斉地区においても様々な課題に直面しています。農業を取り巻く状況で言えば、農業経営者の高齢化により、「あと、何年もつかわからない。子どもはサラリーマンなので将来のことを考えると不安だ」との声が寄せられます。

そこで、『地区内の諸問題について、自主的に話し合い、関係機関との連絡調整を図りながら共同活動を推進し、住みよい修斉地区と岸和田市のまちづくりを進めること』を目的とする市民協がまちづくり専門委員会を立ち上げ、令和２年度の勉強会、そして令和３年度のワークショップを経て、この度「修斉地区まちづくり基本構想」を策定しました。

本基本構想には、修斉の将来を考え、参加していただいた皆さんの想いが詰まっています。

今後、実際に取り組むべき提案についてさらに検討し、住民への説明、賛同を得たうえで可能なものから実施していきます。

１　修斉地区の概要

（１）地理

修斉地区は、岸和田市の山間部に近い丘陵部に位置し、神於山と葛城山をバックに豊かな田園風景が広がる、自然豊かな地域です。地区内には、東西に大阪外環状線（国道１７０号）、南北に府道岸和田港塔原線の幹線道路が走り、また、南北に二級河川の津田川が流れています。現在、神須屋町、八田町、真上町、葛城町、土生滝町、阿間河滝町、北阪町の７つの町で構成されています。

（２）地区町村年表

１５８５年（天正１３年）　小出播磨守の領地となる
１５９２年（文禄元年）　阿間河滝町を天下瀧村と称す
１６１９年（元和５年）　松平周防守の領地となる
１６４０年（寛永１７年）　岡部美濃守宣勝の領地となる
１６４７年（正保３年）　土生より瀧村が分かれる（現土生滝町）
１６５５年（明暦元年）　真上の地を開墾、竣工し、真壁村（真上村）と称す
１６８５年（貞享２年）　瀧村を阿間河滝村と改称する（現阿間ヶ滝町）
１７０６年（宝永３年）　真上新田と改称する
１７５４年（宝暦４年）　真上新田の中に平原７軒があった
１８７１年（明治４年）　７月岸和田藩を廃し、岸和田県となる
１８７１年（明治４年１１月）　１１月堺県和泉国南郡となる
１８８９年（明治２２年４月１日）　町村合併により、有真香村となる
合併した村　神須屋　八田　真上新田　土生滝　阿間河滝
１８９１年（明治２４年）　真上新田に北阪の字地がみえる（現北阪町）
１８９６年（明治２９年４月１日）　泉南郡有真香村となる
１９１０年（明治４３年１２月）　真上新田を真上と改む
１９４０年（昭和１５年６月１日）　有真香村は岸和田市に合併　各村は町となる
１９４３年（昭和１８年４月）　北阪町が誕生
１９６９年（昭和４４年１０月）　葛城町が誕生

出典：修斉小学校創立百周年記念誌

（３）修斉小学校の校名のいわれ

大学にいう、「修身齊家」は、自分の行いを正しくし、家庭もととのえることがもっとも基本的な実践倫理であると考え、男子一生の目的とされたものでありました。

初代校長奥六造先生は、この中の二字をとって、「修斉」と名づけられたと伝えられています。

出典：修斉小学校創立百周年記念誌

（４）修斉地区の今

豊かな自然に恵まれ、夏の盆踊り大会や秋のだんじり祭など、地域住民の協力により、多彩な素晴らしい伝統行事が育まれているまちです。

昭和６１年に有真香会館が完成し、平成元年に修斉地区市民協議会が設立され、平成６年には大阪外環状線（国道１７０号）が開通しました。

公共施設	修斉保育所、修斉幼稚園、修斉小学校、 葛城中学校、有真香会館
避難所	修斉小学校、葛城中学校、有真香会館
公園	葛城公園（葛城町） 有真香公園（土生滝町）
主要幹線道路	大阪外環状線（国道１７０号） 府道岸和田港塔原線 市道包近流木線（通称水道道）
ほ場整備	神於山地区、神須屋地区、土生滝第２工区、 土生滝第１工区、阿間河滝地区、 阿間河滝地区（小池）
神社仏閣	矢代寸神社、真上神社、意賀美神社、 北阪八幡宮 成願寺、大師堂、阿弥陀寺
地車	６台 （神須屋、八田、真上、葛城、土生滝、阿間河滝）
神輿	１台（矢代寸神社）

２　修斉地区の現状

修斉地区は、現在 2,302 世帯 5,562 人（※）の方が住んでいます。（参照：R3.4.1 住民基本台帳）

人口推移は平成 22 年の住民基本台帳と比較すると 508 人減少し、そのうち 15 歳未満の子どもは 222 人減少、15 歳から 64 歳までの稼働年齢層は 655 人減少、逆に 65 歳以上の高齢者は 369 人増加しています。この少子化・高齢化の傾向は今後も変わらないものと予測されています。

高齢化率は 34.7%で、市内平均の 27.9%より高くなっています。（参照：令和２年度介護保険事業状況）

修斉地区の課題として、農業経営者の高齢化、若い人の農業ばなれ、担い手が不足等、社会的状況が大変厳しい現状下におかれています。私たちが思っている以上に早く高齢化が進んでいることへの危機感があり、そして、地区の大部分は市街化調整区域で農用地が多いため、まちづくりが難しい面があります。

将来、計画されている広域幹線道路で、地区の活性化として大変「夢」のある地区内を通る計画道路「泉州山手線」は、その沿道においては都市的土地利用の需要が高いと考えられることから、沿道の農業用地の新たな活用等が望まれるところです。

修斉地区の将来像を思い描くと、泉州山手線と土生郷修斉線が開通し、沿道の土地利用が進み、人々が居住したい地域として人気が高まり、人口が増え、のどかな田園風景は、文化的でハイセンスな小さな村のまちへと大きく変貌していることを想像するものです。

※　修斉地区は飛び地が多く、隣接の旭・太田地区や天神山地区に多くの修斉地区の地番が存在するため、修斉地区内の人口・世帯数と住民基本台帳上の人口・世帯数は大きく差異があります。しかしながら、修斉地区内の人口・世帯数を表す公式データがないため、修斉地区の人口・世帯数は、住民基本台帳によるものとします。

３　修斉地区の宝

（１） 人・交流

●だんじり祭
●ラジオ体操
●市民協議会
●福祉ホットサロン（各町）
●気さくな人柄
●寺を中心とした人のつながり
●子ども見守隊
●連合町会
●放課後子ども教室
●ふれあいサロン修斉
●町民の団結力がある
●農を中心とした人のつながり

（２） 歴史・文化

●捕鳥部万の墓、犬塚
●矢代寸神社の神輿
●諸井堰
●成願寺
●だんじり祭
●盆踊り
●泉州弁
●矢代寸神社
●意賀美神社
●北阪八幡宮
●修斉小学校
●地蔵盆
●月見

（３） 自然・名所

●意賀美神社
●津田川（雨降りの滝）
●真上神社（龍王神社）
●奥家の椋
●花つくり（菊、けいとう）
●愛彩ランド
●宝照院からの夕日（お立場）
●阿間河滝町の石垣の町並み
●神於山
●北阪八幡宮からのながめ
●成願寺
●農地
●ため池
●矢代寸神社
●神於山の笹をパンダに提供
●大師渕（神須屋町）

（４） 農作物

●水なす
●はっ竹
●柑橘類（みかん、不知火）
●トマト
●いちご
●人参（彩誉）
●さつまいも
●花卉（菊、けいとう）
●軟弱野菜（きくな、小松菜、ほうれん草）
●竹の子
●玉ねぎ
●いちじく
●ぶどう
●わらび
●スイカ

（５） 郷土料理

●ちらし寿司
●フカの湯引き（酢味噌和え）
●じゃこごうこ
●茶粥

４　修斉地区の課題

（１） 道路整備、公共施設に関すること

●泉州山手線の早期完成

●泉州山手線整備区域の順番の整理　※渋滞緩和のため修斉地区を先に

●泉州山手線に伴う施工に、湧水（矢代寸神社西側）保護が必要

●泉北高速鉄道の延伸（産学・事業のポイントになる）

●土生郷修斉線の早期整備（市整備から府整備に変更）

●岸和田港福田線の延伸（外環まで）

●生活インフラ（下水道、都市ガス等）の整備

●公園が少ない

●津田川の護岸整備（阿間河滝町、土生滝町）

（２） 安全、環境に関すること

●避難場所（各町の臨時避難場所、愛彩ランド）

●地区の防災計画が未完成

●空き家の増加

●外国（外来種）の植物がとても多くなっている

●神於山の環境が悪化している（なら枯れ、竹害等）

●意賀美神社（環境保全）

●津田川（自然環境保全）

●外環や農道ができ便利になった反面、用心が悪くなったのと、町内を通り抜ける車が増え、交通安全の危険性が増えた

●神於山土地改良区及びその周辺道路の問題（深夜帯における治安の悪化）

●国道の交通量増加に伴う大気汚染

●岸和田港塔原線の狭隘道路（土生滝町）の安全対策

●詐欺事件、不審者事件が多い

（３） 農業振興、産業振興に関すること

●農業後継者がいない

●作り手のない農地がどんどん増えている

●有害鳥獣（イノシシ、アライグマ、カラス）の被害が多い

●市街化調整区域の見直し

●大阪外環状線沿道の新たな土地利用

●企業誘致ができない

●農業以外の地場産業がない（若者の転出）

●特産品がない

（４） 子育て、青少年育成、福祉、健康に関すること

●子どもが少ない

●高齢化が進んでいる

●高齢者、障がい者が安心して暮らせない

●高齢者は車がなければ移動できない

●この地に生まれた人と他所から来た人の融合

●独居老人の増加

●老人クラブの入会者の減少

●若者の転出が多い、独身の若者が多い

（５） 文化、教育、コミュニケーションに関すること

●小・中学校統合について

●幼稚園・保育所の統合について

●人口減少によるコミュニティ不足

●だんじり祭に若者の参加が少ない

●修斉校区にある文化財の保護が必要（どの場所にあるか地図化する）

●町会加入者が減少している

●校区の繋がりが希薄になっている

●意賀美神社や雨降りの滝は、由緒あるところなのでもっと知ってほしい。とりあえず、台風でくずれたところは治してもらいたい。

5　目指すべき将来像

修斉地区の特性やまちづくりの資源・課題をふまえ、めざすまちの将来像を以下に定めます。

■キャッチフレーズ

『な が め 良 き 和 の ま ち』

◆まちの将来像

「豊かな自然・文化・景観を次世代に継承し、みんながいきいきと暮らせるまち」

（１） 道路整備、公共施設に関すること

●泉州山手線と土生郷修斉線が整備され沿道の土地利用ができている
●泉北高速鉄道が修斉・天神山地区まで延伸され活気があるまち
●岸和田港福田線が外環状線まで延伸されている
●生活インフラ（下水道、都市ガス等）が整備されている
●大規模なスポーツ施設があるまち
●サイクリングロードがあるまち
●津田川護岸整備が完成している

（２） 安全、環境に関すること

●災害時の地域内での助け合いがあるまち
●道の駅が避難所になっている
●古民家が活用できているまち
●津田川の清掃がみんなでできている
●ゴミの不法投棄がなくなっている
●神於山の環境が保全（里山保全）されている
●農風景を活かした魅力あるまち
●幹線道路の整備が進んでいる
●結婚しても地域で生活するまち
●詐欺事件、不審者対策ができている

（３） 農業振興、産業振興に関すること

●市街化調整区域が見直され、市街化が進んでいる
●農業振興区域が見直しされている
●若い人が農業できる仕組みができている
●農業生産性向上の手立てが打ち出されている
●農業後継者の移住が推進されている

●有害鳥獣（イノシシ、アライグマ、カラス）対策ができている
●修斉校区の特産品がある
●企業誘致が推進されている
●地場産業が育成されている

（４） 子育て、青少年育成、福祉、健康に関すること

●高齢者等のサロンが活発である
●子育て支援が進んでいるまち
●いろいろな年代の人が参加できる行事があるまち
●若い人たちが住めるまち
●地域出身者が地元に帰り、世帯を持つまち
●老人と子どもが交流できる行事があるまち
●子どもも参加できるサロンがあるまち
●子どもたちや年長者がイキイキ遊んだり語り合う場があるまち
●新造成地の人との交流があるまち
●コミュニティバスなど公共交通機関が充実し、車がなくても移動できるまち
●犯罪や非行を防止し安全で安心して暮せるまち
●子ども、老人、若者の活動交流（市民協構成団体の連携）
●子ども、老人など地域で顔の見えるまち
●高齢者、障がい者が安心して暮らせるまち

（５） 文化、教育、コミュニケーションに関すること

●地域としての魅力ある学校を作る
●若い人が育つ魅力あるまち
●小学校を中心として子どもから大人まで交流があり人的繋がりが強いまち
●加入して良かったと思える「魅力ある町会」になっている
●だんじり祭に若者の参加が増加している
●文化財を語る「語り部」がいるまち
●祭礼の継続と青年団の育成が図られている
●おしゃれなカフェがあるまち
●修斉地区の「史跡めぐりマップ」をつくり、歴史、文化を継承するまち

6　修斉地区まちづくり方針

修斉地区のまちの将来像を実現するために、基本方針を以下の通り定めます。

■キャッチフレーズ

『 な が め 良 き 和 の ま ち 』

◆まちの将来像

「豊かな自然・文化・景観を次世代に継承し、みんながいきいきと暮らせるまち」

1　道路整備、公共施設に関すること

(1) 良好な交通環境のあるまち

① 幹線道路の整備と沿道の都市的土地利用の推進

② 生活道路の整備

③ 安全で外出しやすい交通環境づくり

(2) 住民と行政による協働のまち

① 住民ニーズを踏まえた公共施設の有効活用

② 生活インフラの整備

③ 公園の整備

2　安全、環境に関すること

(1) 災害に強く犯罪の少ないまち

① 災害に強い基盤づくり

② 犯罪の少ない環境整備

③ 防災・防犯意識の向上

(2) 人と自然が共に生きるまち

① 農風景を活かした魅力あるまち

② 神於山・津田川の保全・整備

③ 快適な住環境の整備

3　農業振興、産業振興に関すること

(1) 都市農業の振興

① 担い手の育成・確保

② 産地ブランドの育成

③ 農業生産性向上の推進

④ 販路の確保

(2) 地場産業を育むまち

① 地場産業の継承

② 地域ブランドの育成

③ 地域のイメージアップにつながる企業の誘致

4 子育て、青少年育成、福祉、健康に関すること

(1) 安心して暮らせる誰もが生活しやすいまち

① 子育てしやすいまち

② 老後を楽しく過ごせるまち

③ 障がい者にやさしいまち

(2) 青少年活動が活発なまち

① 清掃等奉仕活動の推進

② 盆踊り、祭礼が盛大

③ 青年団の育成

(3) 誰もが参加できる行事や交流できる場所づくり

① いろんな世代が参加できる行事づくり

② いろんな人が交流・集える場所づくり

③ 互いに助け合えるまちづくり

5 文化、教育、コミュニケーションに関すること

(1) 歴史文化が身近に感じられ、新たな世代に受け継がれていくまち

① 歴史文化に触れる機会の創出

② 歴史文化資源の保全と活用

③ 祭礼の継承

(2) すべての世代がいきいきと暮らせるまち

① 教育環境の充実

② 生涯学習活動の場の充実

③ 地域や自然、多世代との交流などさまざまな経験ができる環境づくり

(3) 地域コミュニティを核としたまちづくり

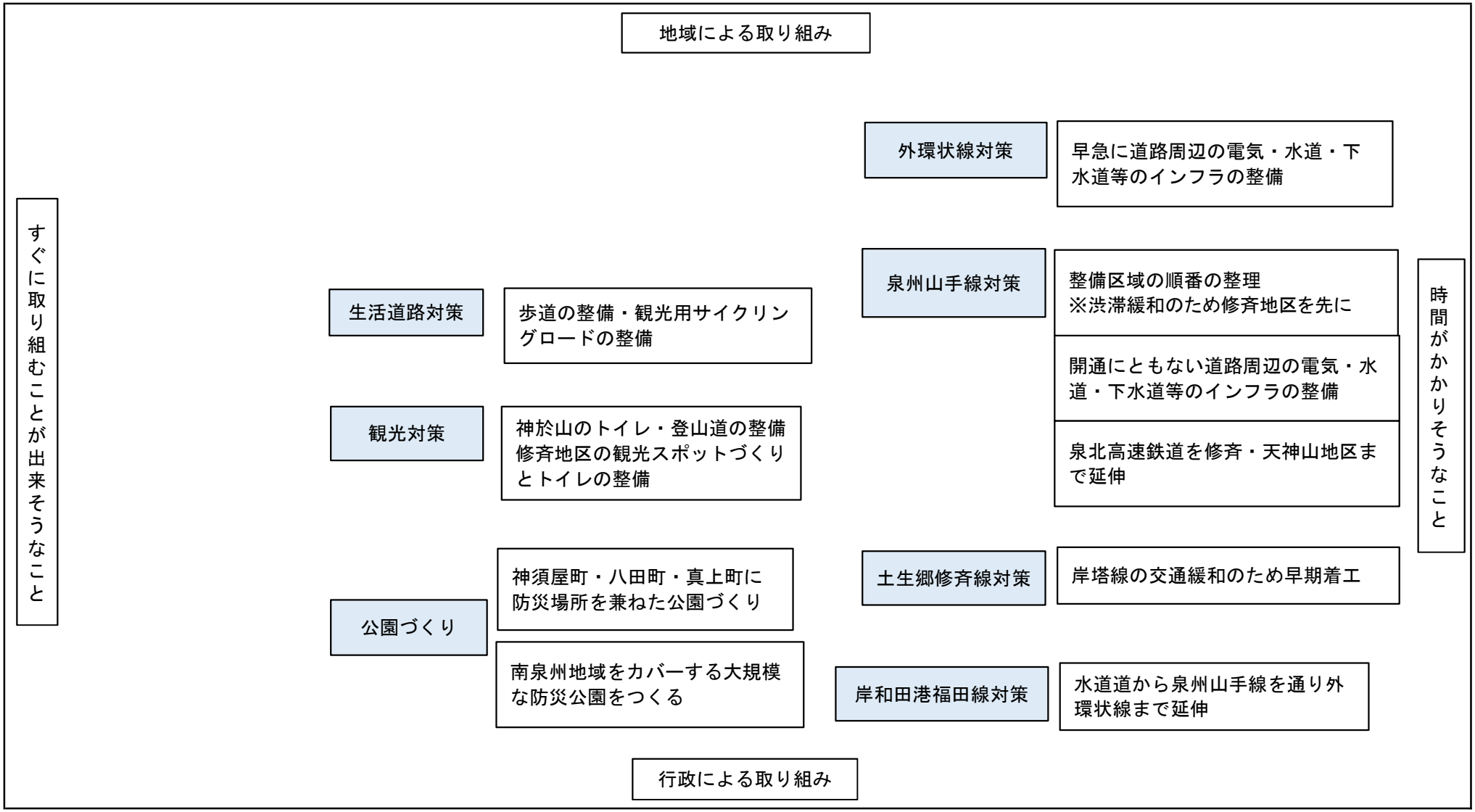
① 地区市民協議会の充実

② 魅力ある町会づくり

③ 地域のつながりや連帯感が強く、ぬくもりに触れ合えるまち

7　修斉地区の取り組みの提案

（１）道路整備、公共施設に関すること



（1）道路整備、公共施設に関すること

1　道路整備に関すること

修斉地区の幹線道路は、南北（大阪と和歌山軸）に市道「水道道」と府道「大阪外環状線」、東西（海と山軸）として中央部に府道「岸和田港塔原線」があります（図１）。

しかし、大阪外環状線以外の最も地域に密着した主要道である水道道と岸和田港塔原線は、歩道が片側しか無い、極めて狭い、歩道が全く無いところすらあって、歩行者や自転車にとって極めて危険な道路です。また、都市部との幹線である岸和田港塔原線は、大型車の対向が困難な場所もあります。

ここに、府道「泉州山手線」が新たな東西軸として計画が実施段階になりました。これを加えて修斉地区の交通を考えると、都市部や大阪外環状線や山手方面へは現状の岸和田港塔原線では対応できません。また、安全な歩道を整備した都市計画道路である市道「土生郷修斉線」や泉州山手線までの計画しかない市道「岸和田港福田線」の大阪外環状線までの延長によって東西交通路の整備が必要です（図２）。

その上で、修斉地区は神於山をはじめ景勝地や史跡などもあり、岸和田港塔原線を中心に周辺の道路を活用して神於山までのサイクリングロードを整備すると田園と相まって豊かな地域ができると考えます。

2　公共施設に関すること

大阪外環状線は神於山の山際を通っていますが、極めて眺めの良い場所です。周辺の新たな産業立地（物販、飲食等）が考えられるのですが、現実にはほとんど立地していません。その理由は水道・下水道の未整備によるものです。農林業や環境保全を重視する修斉地域でありますが、その周辺産業もまた地域としては重要でありますので、この大阪外環状線に併せて新規の道路には水道・下水道整備が必須であります。

図２で見ると、修斉地区の景勝地や史跡、公民館、グラウンドはやや山手側に立地しています。泉州山手線ルートの海側には、葛城中学校と八代寸神社、湧水がありますが、泉州山手線近辺に公園を配置して、住民の交歓やサイクリングなどの休息空間が必要ではないかと考えます。

最近は防災が非常に重要となっています。新規道路に関連して、泉州山手線と大阪外環状線の間で、両方の道路から遠くない防災基地ができればどうだろうと思います。医療資源の多い岸和田市で泉州地域の中央という位置を考えると、泉州全域を対象として備蓄倉庫・ヘリポート・防災訓練と学習施設を備えた防災基地は必要でありますし、修斉地区には適地があると思います。

図１
現況図

幹線道路（現況）

東岸和田駅

市道岸和田港福田線

光明小学校

旭小学校

神須屋町錯雑地

神須屋町

市道流木水源地線

市道包近流木線（通称水道道）

府道岸和田港塔原線

天神山小学校

市道流木真上線

修斉小学校

府道大阪外環状線

東葛城小学校

0　1　2 km

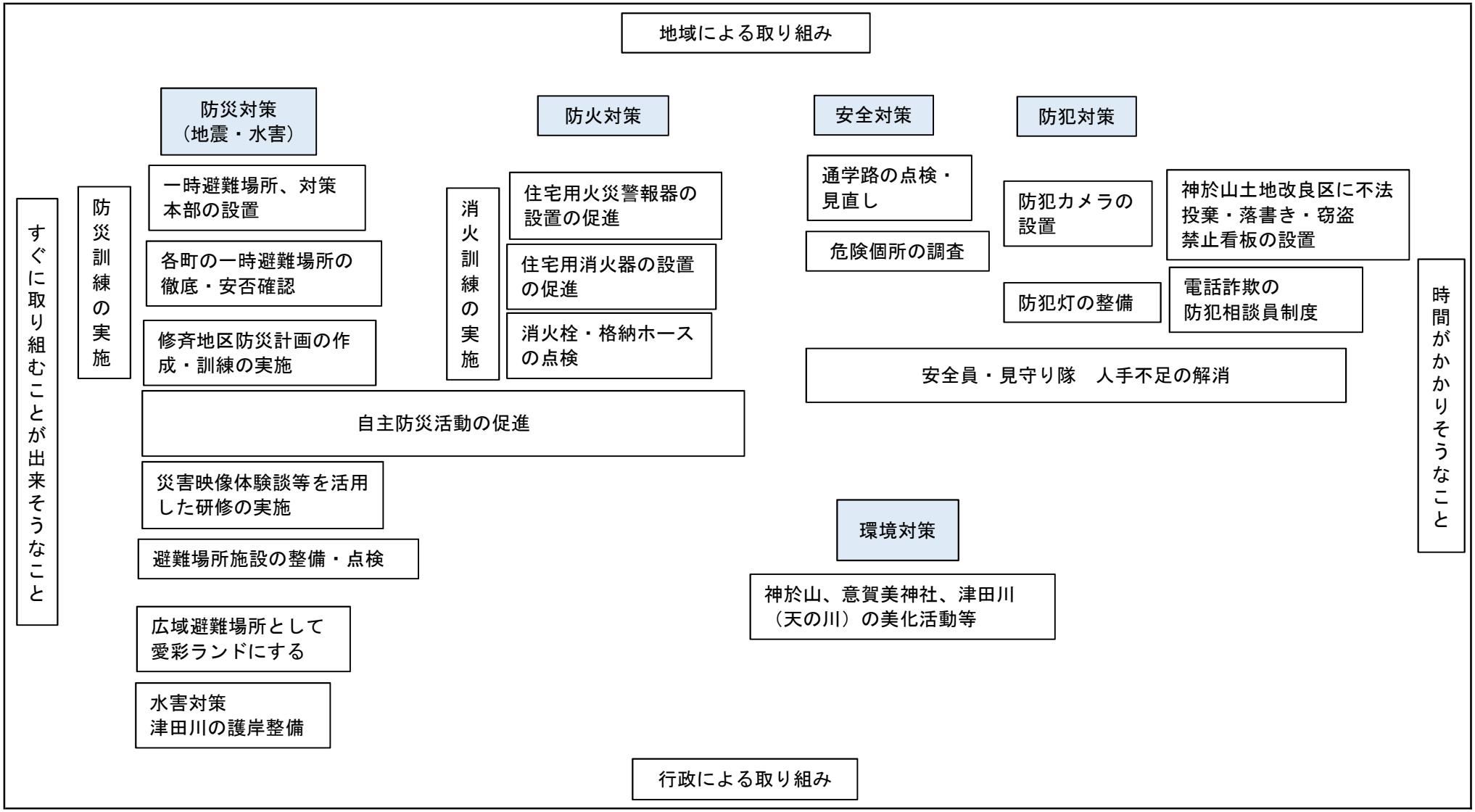
図２
予想図（期待図）

幹線道路（将来予想図）

東岸和田駅
旭小学校
光明小学校
市道岸和田港福田線
市道包近流木線（通称水道道）
葛城中学校
矢代寸神社
津田川
府道泉州山手線（実施計画）
市道岸和田港福田線
外環まで延伸（要望）
天神山小学校
修斉小学校
土生郷修斉線（計画のみ）
農道
有真香公園
（有真香グラウンド）
有真香会館
府道大阪外環状線
意賀美神社
東葛城小学校
0
1
2 km

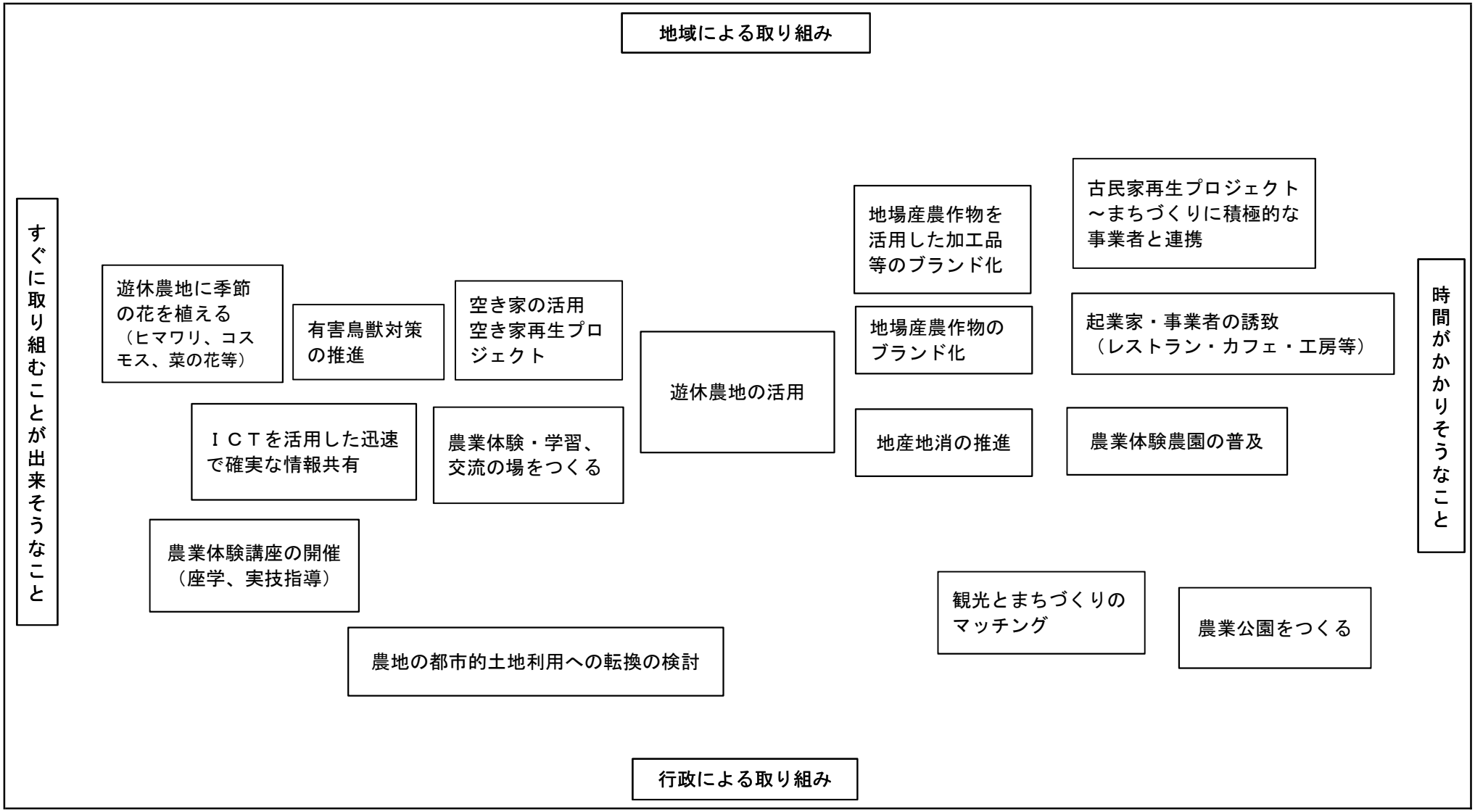
7　修斉地区の取り組みの提案

（２）安全、環境に関すること



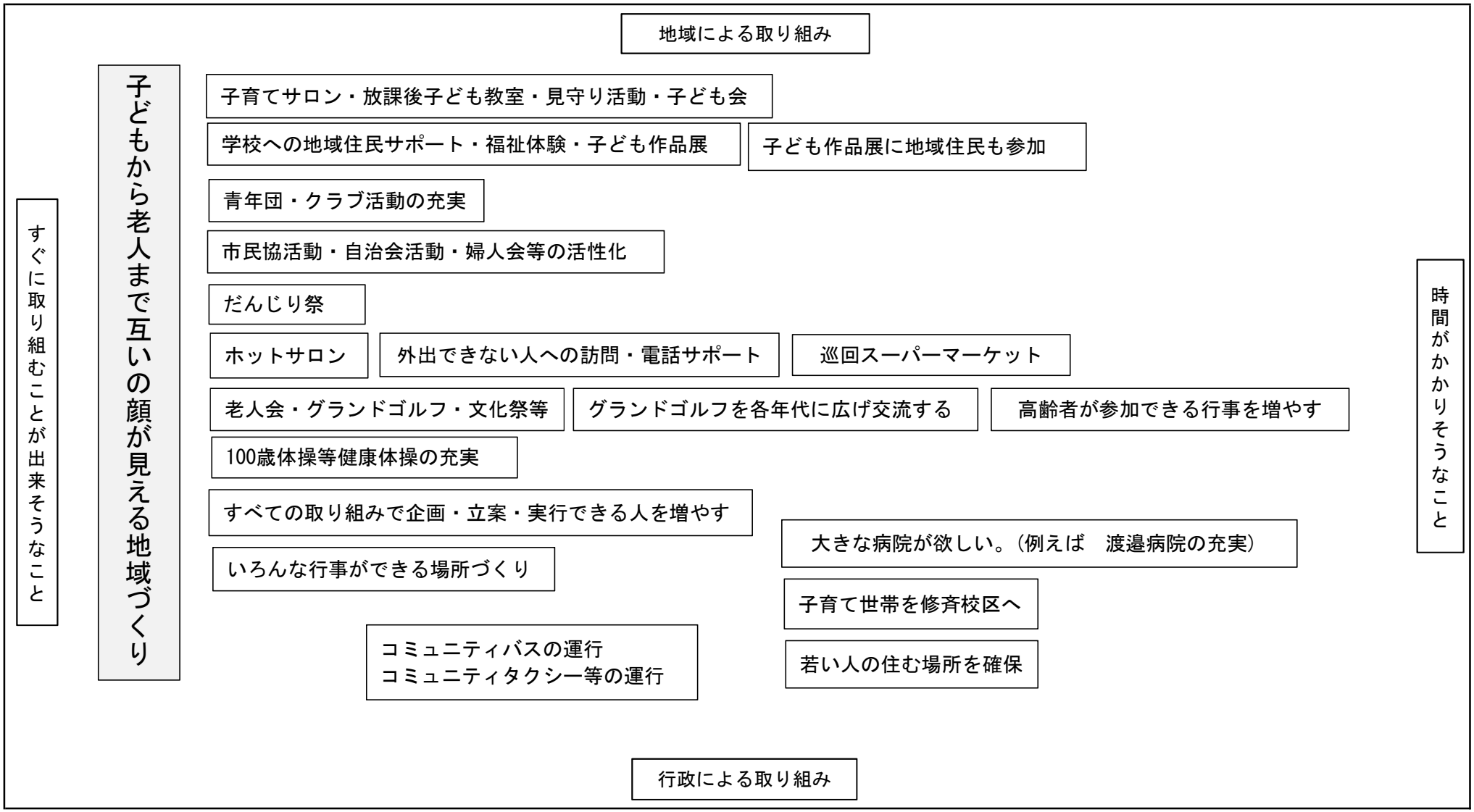
7　修斉地区の取り組みの提案

（３）農業振興、産業振興に関すること



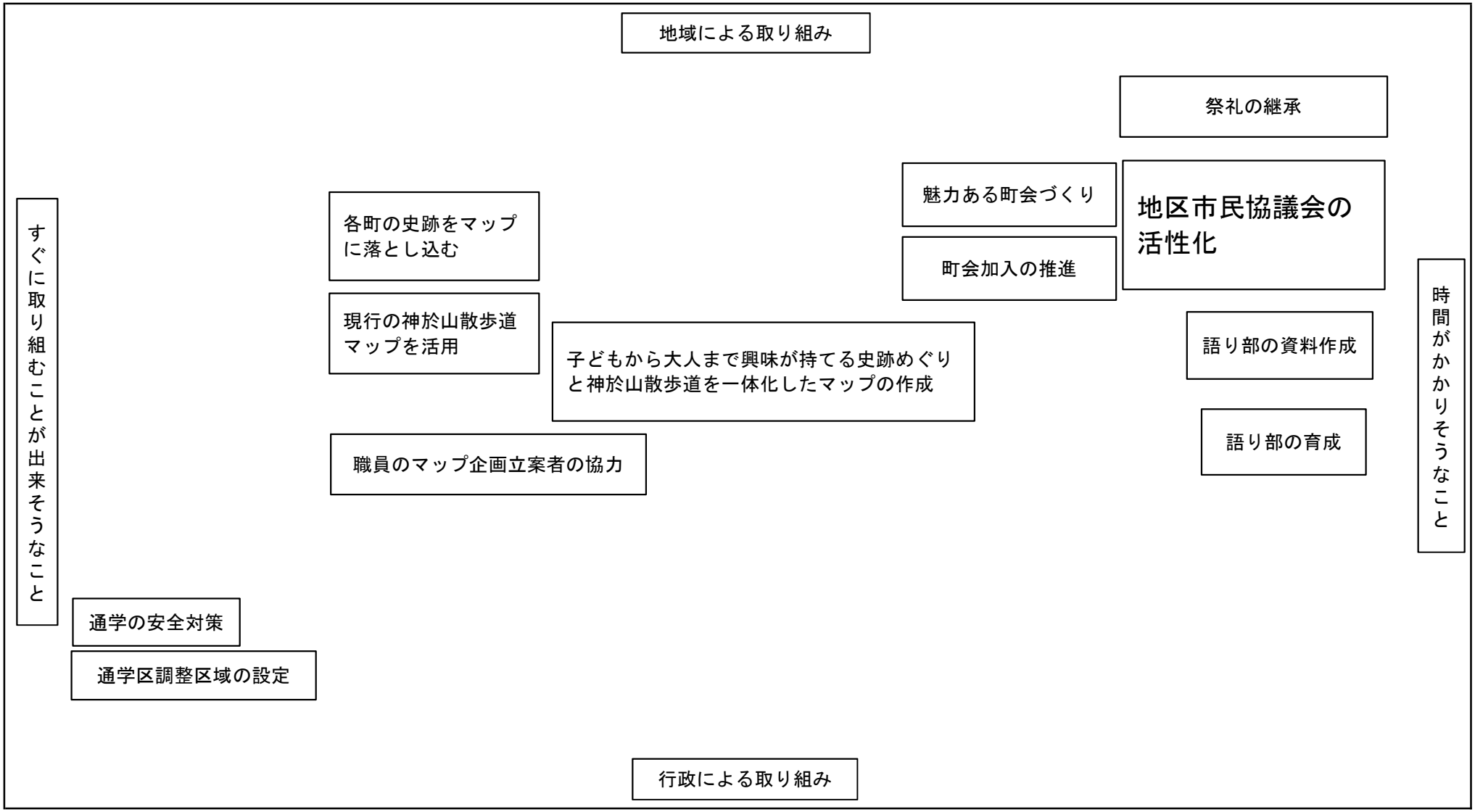
7　修斉地区の取り組みの提案

（４）子育て、青少年育成、福祉、健康に関すること



7　修斉地区の取り組みの提案

（５）文化、教育、コミュニケーションに関すること



8　これまでの経緯

■ 勉強会の開催

日時・会場・参加者		実施内容
令和2年	9月24日(木) 18：30～19：30 有真香会館 参加：２６人	テーマ　「市街化調整区域のまちづくり」 講　師　都市計画課：山田課長、藤井参事 農林水産課：山田課長
	11月21日(土) 19：00～20：00 有真香会館 参加：３３人	テーマ 「泉州山手線沿道のまちづくりの方針と進捗状況について」 「都市計画道路（土生郷修斉線）について」 講　師　都市計画課：山田課長、藤井参事 市街地整備課：高橋課長、秦参事
令和3年	1月26日(火) 19：00～20：00 有真香会館 参加：３７人	テーマ 「修斉地区における農地（農用地）の現状及び農地を活用したまちづくりについて」 講　師　都市計画課：山田課長、藤井参事、柿花担当長 農林水産課：山田課長
	3月23日(火) 19：00～20：00 有真香会館 参加：３３人	テーマ 「修斉地区で発生し得る災害とその対応について」 講　師　都市計画課：山田課長、藤井参事 建設指導課：日下課長 農林水産課：山田課長 危機管理課：高司参事、山本

第１回ワークショップ 日時：令和３年８月１日（日） 13：30～15：10 場所：有真香会館 参加：４４人	各班の検討テーマについて、あらかじめ設定した議題（修斉地区の宝、課題）を出しあい、テーマごとに目指すべき将来像を決める。

第２回ワークショップ 日時：令和３年８月 22 日（日） 13：30～15：45 場所：有真香会館 参加：３６人	第１回に続き、修斉地区の宝、修斉地区の課題を出しあい、テーマごとに目指すべき将来像を決める。

第３回ワークショップ 日時：令和３年 11 月 21 日（日） 13：30～15：30 場所：有真香会館 参加：３５人	第２回で出された意見をもとに、修斉地区まちづくり方針を全体で決めるとともに、修斉地区の宝をさらに伸ばす取り組み、あるいは地区の宝を生かしながら課題を解決し、目指すべき将来像に導くための取り組みを班ごとに提案する。

第４回ワークショップ 日時：令和３年 12 月 19 日（日） 13：30～15：50 場所：有真香会館 参加：２７人	第３回に続き、修斉地区の宝をさらに伸ばす取り組み、あるいは地区の宝を生かしながら課題を解決し、目指すべき将来像に導くための取り組みを班ごとに提案する。

第５回ワークショップ 日時：令和４年１月 23 日（日） 13：30～15：00 場所：有真香会館 参加：３０人	第１回から第４回のワークショップで出された意見をまとめた「修斉地区まちづくり基本構想（案）」を全体で確認する。

記念講演会・住民説明会 日時：令和４年３月 27 日（日） 14：00～16：20 場所：有真香会館 参加：５９人	・記念講演 「修斉地区のこれからのまちづくりの進め方」 ・修斉地区まちづくり基本構想（案） 住民説明会